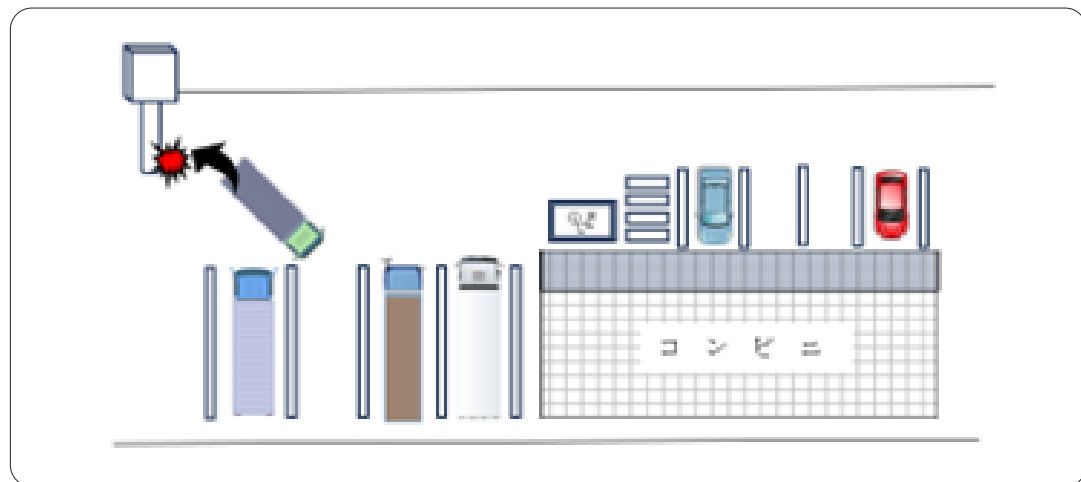


# 職場における 交通安全指導

Part 142

## ■ 中型貨物車が、コンビニエンスストアの看板に衝突



### ■ 事故の概要

- 事故の当事者  
当事者A（中型貨物車）：20歳代、男性  
当事者B コンビニ看板ポール
- 発生場所  
コンビニ駐車場内
- 被害状況  
A：後部バンパーのへこみ  
B：看板ポール損壊

### 事 故 状 況

Aは、トラックの乗務歴が2年のドライバーで、主に配送センターからスーパー等に食品を配送する業務を担当していた。

事故当日は、中型貨物車を運転し、配送センターで荷物を積み込み、担当区域のスーパー等に順次配送をしていた。早朝から乗務を開始し、途中で渋滞があり予定の時間を過ぎてしまい、少し焦りを感じていた。時間に遅れていたことと、早朝からの乗務で疲労を

感じており、昼食と休憩を予定していた場所まではまだ距離があったことから、近くにあったコンビニに立ち寄り、昼食と休憩をとることにした。

Aは疲労を感じていたことから、早く休憩を取りたいと思い、普段は駐車枠にバック駐車するところを前進で駐車した。車内で昼食を済ませた後、遅れを少しでも取り戻そうとエンジンをかけ、すぐに駐車枠からバックで動き出し、右ミラーを確認しながらバックしていたところ「ガシャ」と音がし、車を降りて確認すると後方の看板のポールに衝突していた。

### 事 故 の 原 因

事故の原因は、Aが事前に後方の確認を怠り、右ミラーのみの確認でバックさせてしまったことです。

## 安 全 指 導

バック時は、死角となる部分が多く細心の注意が必要です。構内などでバックする際は次のことに注意しましょう。

### ①安全確認を徹底する

バックを開始する前に下車し、目視にて確認しておけば周囲の状況を把握でき事故を未然に防ぐことができます。

また、進入時に全体の状況を把握したつもりでも、バックする時点では状況が変わっていることがあり、安易にバックすると事故につながるおそれがあります。

駐車場内の状況は常に変化します。

バックする際は、面倒でも下車してトラックの後方に回り安全の確認を目視で行いましょう。

### ②すぐにバックせず、一呼吸おく

バックギアに入れたら、すぐにバックするのではなく、一呼吸おいてバックブザーが2～3回鳴ってからバックを開始しましょう。

一呼吸おくことで、周囲を確認する余裕ができ、バックブザーによる周囲への注意喚起になります。

### ③自車の死角を理解する

車体の大きなトラックは、死角部分が多く存在します。自分の乗務車両でミラーや、バックモニターに映る範囲がどの程度なのか、死角部分がどの範囲なのかを事前に知っておく必要があります。

ミラーやバックモニターに映る範囲や死角を知った上で安全確認を行い、ミラーやバックモニターだけに頼り過ぎることなく、自分の目でも安全確認をしましょう。

### ④直ちに停止できる速度でバックする

バック時はすぐにブレーキに足を移せる心構えで、人がゆっくり歩く程度の速度で走行しましょう。

また、バックする際は窓を開け、ラジオなども切り周囲の状況や音も確認しながらバックし、違和感が少しでもあればすぐに停車できるよう、十分注意を払う必要があります。

### ⑤コメンタリー運転の励行

見落としを防ぐ観点から、目で認知した情報を声に出してコメントしながら運転するコメンタリー運転を励行しましょう。

「後方よし」などと声に出すことは認知ミスを防ぐために有効な手段だと考えられています。

バックでの事故を防止するために、積極的にコメンタリー運転を実践しましょう。

車体の大きなトラックは死角部分が多く、バック時は広範囲にわたっての目配りや気配りが必要です。乗務車両の死角や見える範囲を確実に把握し、正確な安全確認を行ましょう。

交通事故防止動画  YouTube にて公開中！

ドライバーの交通事故防止の教育・指導にご活用ください。

